

令和元年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 市民の文化芸術活動を支援します。	市民自ら行う文化芸術活動の「きっかけづくり」や「継続的な活動」をお手伝いする	市民のための講座					<p>【成果】</p> <p>・「市民のためのプログラム」 横浜北部地域に位置する市民利用施設として、市民が自ら芸術文化活動を体験することのサポートを心がけ事業展開を図る。年度末にコロナウイルス感染症予防対策による一部事業中止を余儀なくされたが、開催目標数の10事業を開催。参加者数は、目標の93%となったが、平均満足度は、4.94と非常に高かった。 今年度は、スリッウェア、テンペラ画、手描友禅など普段あまり体験の機会が少ない分野をあえて取り上げ、当館ならではのプログラムの幅を広げることにも努めた。</p> <p>・「あざみ野カレッジ」 文化芸術に限定しない地元地域の遺跡や楽器工房等とも連携を図り、幅広いニーズに応える生涯学習の場を提供した。加えて、当館所蔵のカメラ・写真コレクションに関する研究成果の発表も実現することが出来た。</p> <p>・「あざみ野サロン(鑑賞型事業)」 アーツフェスティバル(音楽)との連携で開催したオペラ企画は、話題性も高く大いに賑わい横浜北部でのフェスティバルの認知度向上に寄与した。2年越しでの男女共同参画センター横浜北との共同制作によるアートとジェンダーの融合をテーマとした企画については、残念ながら新型コロナウイルス感染症予防対策につき次年度に延期となった。</p> <p>・「地域アウトリーチ及び派遣型アウトリーチ」 山内小学校5年生全員に対するワークショップも6年目となり、夏休み期間中に開催する「こどもぎやらい」での成果展を目標に、それぞれが意欲的に工夫して撮影に取り組む姿勢が見られた。</p> <p>・「市民協働/地域連携型アウトリーチ」 今年度も横浜市岩間市民プラザでの「フェローアートギャラリー」巡回展を実施。安定した障害者アート紹介のネットワーク構築が継続している。また、他市で活動する文化芸術団体との連携事業シンポジウムや勉強会を開催し文化芸術振興の環境整備についての情報交換を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>・「あざみ野カレッジ」において専門性の高い実践講座を開催することが出来なかった。昨年度、シリーズ展開を図り高評価を得た事業ではあるが講師の選定や他事業との兼ね合いから調整がつかず、一般的なアート関連講座の中で専門性の部分も吸収する開催となってしまった。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症予防対策の影響で、「あざみ野サロン」における男女共同参画センター横浜北との共同事業が延期になってしまったことが悔やまれる。次年度に、満を持しての開催を実現したい。</p> <p>・フェローアートギャラリーの巡回先が未だ1ヶ所に留まっている。緑区民文化センターなど近隣施設を中心とした協力の呼びかけを積極的に行う必要がある。</p>
		□年間開催回数	10コース以上	10コース実施 (一部中止回あり)	B	□入門編 ・やさしく、たのしいデジタル一眼カメラ (4/11-6/6) 計5回 ・はじめての透明水彩(9/11-11/11) 計5回 ・手描き友禅(2/7、2/21) 計3回のうち3/4開催分を次年度に延期	
		□年間延べ参加者数	800名以上	743名	B	□中級編 ・オープンスタジオ「ヌード・クロッキー」(4/10-3/4) 5コース 計20回予定のうち2回中止 ・陶芸-スリッウェア(5/24-7/5) 計5回 ・古典絵画技法 金箔装飾とテンペラ画(1/4-12/13) 計6回	
		□平均満足度	4.6以上	4.94	B	□アーティストに学ぶ ・特別企画親子向け写真講座「浅田家直伝! 家族写真術 令和元年の巻」 (10/26、11/16) 計2回	
		□入門編	4コース 計20回	3コース 13回 (1回は4/24開催)	C		
		□中級編「ヌードクロッキー」(4コース各4回)	5コース 計20回	5コース 18回(2回中止)	B		
		□中級編	1コース 計5回	2コース 11回	A		
	□アーティストに学ぶ	1回	2回	A			
	2 様々なジャンルの達人やプロフェッショナルによる講座やワークショップで、大人の知的好奇心を刺激する	あざみ野カレッジ					<p>・親子のフリーゾーンや子ども向けの各種講座の開催により、身近な場所でアートに親しみきっかけづくりに貢献した点を評価します。安定した参加者数やアンケートの結果からワークショップや講座が利用者に定着していることが読み取れます。これまでの継続的な取組が結果として評価されています。</p> <p>・「フェローアートギャラリー」や「あざみ野アートワゴン、マルシェ」の実施により、障害者の芸術活動の紹介の場を提供し、支援したことを評価します。</p> <p>・各企画展の実施を通して、来場者数が目標を上回るとともに満足度が高いことを評価します。また、企画展において若手作家の作品紹介の場を提供し、メディアにも多数取り上げられた点を評価します。</p> <p>・ロビーコンサートの開催や講座の共同立案を行う等、複合施設である男女共同参画センター北との協働事業にも積極的に取り組みました。</p> <p>・新型コロナウイルス対策のための休館に伴う施設内の消毒等の対策や、講座の延期、貸館利用者様への対応など迅速かつ柔軟に対応いただきました。そのため大きなトラブルが発生することなく施設の運営を進めることができました。</p>
		□年間参加者数	300名以上	180名	C	□アート関連 ・現代美術探求ラボvol.6 「いま、「限界芸術」を再考する」講師:福住廉(8/31)	
		□平均満足度	4.5以上	4.71	B	・「北歐ルウーの美しい民族楽器 ハーディングフェーレ」 唯一の日本人職人に聞くその魅力と調べ 講師:原圭祐(9/21) ※横浜音楽祭連携	
		□アート関連	年4回	4回 (ほか1回4月延期開催)	B	・現代美術探求ラボ vol.7 現代美術と考える 「これからのデジタルメディア」講師:天野太郎(10/22)	
□地域ほか広範囲な題材		年4回	2回	C	□地域ほか広範囲な題材 ・横浜に暮らした弥生人～大塚遺跡に立って考えてみよう!～(6/22) ※横浜市歴史博物館共催 ・映像と写真でふれるサハリンの先住民(7/7)		
□専門性の高い実践講座	年3回	未実施	C	□専門性の高い実践講座 未実施			
3 複合施設の特徴を活かした、企画展開連事業、フェスティバル事業との連携事業、センター横浜北との共催企画で、アートフォーラムあざみ野の賑わいを創出や顧客開拓する	あざみ野サロン 企画展開連、他舞台系事業					<p>□企画展開連事業、その他舞台系 3回のうち1回を次年度に延期 ・映画「日々是好日」上映(10/27) ※センター横浜北企画 ・あざみ野寄席「新春! 金原亭馬玉独演会」(1/13) ・講演会「マイホームの夢とキッチン-台所は女の城か?」(3/1) ※新型コロナウイルス感染症予防対策につき次年度に延期</p> <p>□横浜音楽祭2019連携事業 1回 ・あざみ野オペラ歌合戦「泉良平VS新津耕平 因縁のリターンマッチ～勝者を決めるのはお客様です～」(11/9)</p>	
	□年間開催回数	年4回 (企画展開連、舞台系:3回、音楽祭関連:1回)	3回 (ほか1回4月延期開催)	B			
	□年間入場者数	400人	443名	A			
4 日ごろ文化芸術に触れる機会の少ない市民を対象としたアートの出前事業を行い、また、市民交流やコミュニティの活性化を図り、創造的なまちづくりを推進する	地域アウトリーチ及び派遣型アウトリーチ	年1回	1回	B	□地域アウトリーチ及び派遣型アウトリーチ 1回(延べ4回) ・山内小学校 写真ワークショップ「自分の思いと写真」 (6/11,17,24,7/1)	<p>・新型コロナウイルス感染症予防対策の影響で、「あざみ野サロン」における男女共同参画センター横浜北との共同事業が延期になってしまったことが悔やまれる。次年度に、満を持しての開催を実現したい。</p> <p>・フェローアートギャラリーの巡回先が未だ1ヶ所に留まっている。緑区民文化センターなど近隣施設を中心とした協力の呼びかけを積極的に行う必要がある。</p>	
	市民協働/地域連携型アウトリーチ	年1回	1回	B	□市民協働/地域連携型 2回 ・横浜市岩間市民プラザ:地域連携型(派遣型) フェローアートギャラリー「はじまりはアートの旅2019」 (8/1-18) ※入場者246名 ・S.O.S.アートラボはしもと等連携事業シンポジウム/勉強会 (11/3,12)		

令和元年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価			
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
2 子どもたちをはじめとする次世代育成をします。	5 アートを通して子どもの感性を磨き、主体性を伸ばすとともに、創造の喜び、コミュニケーション力、思いやりの心を育む	企画展「こどもぎやらい2018」	来場者3,500人以上	4,089人	A	□夏の企画展「あざみ野こどもぎやらい2019」 『さよならをいって それからであう旅』(7/26～8/4) 来場者数4,089人 【展示室1】 アーティスト松本力描き下ろしの絵本を配布、アニメーションや原画等を展示。 【展示室2】 ・横浜市立山内小学校5年生「自分の思いと写真」 ・リサイクルアートに挑戦！ワークショップ参加者各作品展 □展覧会内でのワークショップ 計2回 ・コスモスゴロクをつくろう！(会場内常設) ・マキバンバンとダンスで冒険しよう！ 講師:森下真樹(8/3) ※関連事業 あざみ野ナイト「ハリ島の影絵人形芝居ワヤン マーハーバーラタ「ピマの鬼退治」(横浜音楽祭2019/パートナー事業)(8/4)	【成果】 ・「あざみ野こどもぎやらい2019」 展示室1では、アーティストの松本力氏がこの展覧会のために描きおろした絵本を配布すると共にアニメーション作品7点、原画約70点を展示し、多様で幻想的な空間を展示室の中に出現させ、子どものみならず幅広い層の来場者を魅了した。 展示室2では、定番となった地元小学校との連携事業に加え、近隣企業からの資料提供を受け実施した造形ワークショップの成果展を開催。作者である子どもたちが家族と一緒に来場するだけでなく、子どもならではの表現や思いに触れた来館者の方から、多くの感嘆の声が聞かれた。 会場内でのワークショップをはじめ関連事業も多彩に行い、来場者数についても大きく目標を超える結果となった。	(評価は前ページに記載)	
		□関連事業 展覧会でのワークショップ	1回以上	2回	A	□親子のフリーゾーン 年間33回、参加者数:7,420名 (4/10、24、29、5/8、22、26、6/5、19、23、7/3、7、28、31、8/18、28、9/11、15、25、10/16、27、30、11/13、17、27、12/4、15、18、1/15、26、29、2/5、11、19) ※3月開催予定3回(3/4,18,22)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	・「親子のフリーゾーン」、「子どものためのプログラム」をはじめとした子どもを対象とした事業については、毎回多くの参加希望者が訪れることを鑑み、開催ラインアップを一昨年と大きく変えることなく堅実な内容で実施。開催した事業については、全てを無事故で終了した。しかしながら、台風や新型コロナウイルスの影響で事業自体を中止せざるを得ない状況が多発し、その判断や参加者への連絡等の業務に追われる一面もあった。		
		アトリエを会場にアートと触れ合う事業を実施							
		□年間延べ参加者数	9,000名以上	9,067名	B	□親子のフリーゾーン 年間33回、参加者数:7,420名 (4/10、24、29、5/8、22、26、6/5、19、23、7/3、7、28、31、8/18、28、9/11、15、25、10/16、27、30、11/13、17、27、12/4、15、18、1/15、26、29、2/5、11、19) ※3月開催予定3回(3/4,18,22)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	・横浜市芸術文化教育プラットフォームでは、昨年度実施し話題を集めた地元企業からの資料提供による造形ワークショップを継続開催する事に加え、同様のスキームを異なる地域でも展開し成功を収めた。また、フランスの中学生とのライブ中継による国際交流も手掛けるなど、当館ならではの特色あるプログラムを実施、教育機関との連携による様々な挑戦を試みた。		
		□親子向け:親子のフリーゾーン(FZ)	月3回	33回 (3回中止)	B	□親子で造形ピクニック 年間10回、参加者数:175名 (4/20、5/18、6/15、7/20、8/24、9/21、11/23、12/14、1/18、2/15) ※10/12予定分は、台風上陸の影響にて中止 ※3/14予定分は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	・2回目となった、「横浜市中学校アニメーションフェスティバル2019」は、前回の反省点に対し生徒たち自身が改善を加え、今後の発展が期待できる内容となった。		
		□親子向け/障がい者支援:親子で造形ピクニック	月1回	10回 (2回中止)	B	□幼児向け講座 年6回、年齢制限なし※ 年3回 ・子どものイベント「ふわふわ帽子をつくろう」(5/5) ※ ・見て、さわって、描く(4/29) ・えのぐであそぼう！(6/23) ・焼き物しよう！(9/15) ・アトリエの時計屋さん(10/27) ※ ・ねんどであそぼう！(11/17) ・みんなでつくるあったかクリスマス(11/30,12/1) ※ ・木工しよう！(1/26) ・かみであそぼう！(2/11)	【課題】 ・「あざみ野こどもぎやらい」においては、展示室1(1階)と展示室2(2階)の運動性に希薄な面が否めない。今回は、1階での関連ワークショップを2階で展開するなどの工夫を加えたが十分な成果を得ることが出来なかった。会場全体が一つのフェスティバルに感じられるような会場構成を、引き続き検討する必要がある。		
		□幼児向け講座 実施回数	年7回	9回 (幼児向6回、年齢制限なし3回)	B	□児童向け講座 年5回 ・スチロールアート(5/26) ・油絵を描こう！(6/15、22、7/6、20) ・ボール紙で動物をつくろう！(8/18) ・みんなでダンボールアート！(12/15) ※3/22分「真鍮アートに挑戦！」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	・造形活動による学校支援は、そのニーズが高く今年度においては10校程度を想定に対し、18校もの受入を行った。出来る限りの対応をとることに吝かでないが、他事業やマンパワーとのバランスを考慮し、数の上限・時期の指定などによる枠組み作りが求められる。		
		□児童向け講座 実施回数	年6回	5回 (他1回中止)	B	□学校利用 年間18校 上菅田特別支援、荏田南小個別支援、山内小個別支援、上山小学校個別支援、北山田小+山田小個別支援、港北小個別支援、たかつくらぶ、あざみ野第一小個別支援学級、折本小個別支援学級、若葉台特別支援2年生、若葉台特別支援1年生、相模原中央支援、高津養護学校小学部、長津田小個別支援、大豆戸小個別支援、新羽小個別支援、荏田第一小個別支援、相模原中央支援	・台風、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年になく事業の中止を余儀なくされた。今後、その対応(中止判断基準や周知・連絡)については、一定のマニュアル化が必須。		
		□平均満足度	4.6以上	4.85	B	□学校アウトリーチ ・横浜市芸術文化教育プラットフォーム 5校:講師名/テーマ ①すみれが丘小学校:山田裕介/金属加工 ※資料協力:古河電工パワーシステムズ株式会社(7/11、12、18) ②竹山小学校:森下真樹/ダンス(9/2、9/4、9/6) ③奈良の丘小学校:山田映子/絵の具遊び(9/5、9/13) ④本郷中学校:保科晶子/美術、国際交流(12/5、6、7) ⑤新吉田小学校:山田裕介/金属加工 ※資料提供:有限会社かなめ(1/16、17、23) □山内小学校 1校 写真ワークショップ「自分の思いと写真」 (6/11、17、24、7/1)※再掲			
		□学校利用:造形活動による学校支援	年10回程度	18回	A	□教師のためのワークショップ □年間実施回数 1回 1回 講師:布山タルト 共催:横浜市美術科教育研究部会			
		□横浜市芸術文化教育プログラム:年間実施校数	3校以上	5校	A	□教師のためのワークショップ □年間実施回数 1回 1回 講師:布山タルト 共催:横浜市美術科教育研究部会			
		□横浜市芸術文化教育プログラム:年間参加者数	参加者200名	のべ1,156人	A	□横浜市中学校アニメーションフェスティバル2019(9/28) 共催:横浜市美術科教育研究部会			
		□児童対象:カメラ・写真に関するアウトリーチ ※1-4 地域、派遣型アウトリーチ再掲	1校	1校	B				
		教師のためのワークショップ							
		□年間実施回数	1回	1回	B				
□年間参加者数	10名	20名	A						
教師のためのワークショップ成果展「横浜市中学校アニメフェス」									
□年間実施回数	1回	1回	B						
□年間参加者数	40名	88名	A						

令和元年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
3 アーティスト・クリエイターの支援と創造性を活かしたまちづくりをします。	6 市民とアーティストの交流の場を設ける	企画展でのアーティストとの交流 アーティストトーク、ワークショップ	コンテンポラリー展、写真展 期途中で年4回	9回 ※コンテンポラリーアーティストトークは1日に2回開催	A □コンテンポラリー展及び写真展期間中 年9回 「あざみ野コンテンポラリーVol.10」 ・アーティストトーク#2加茂昂ノ松本奈央子(10/19) ・水野里奈+山岡敏明アーティストトーク緊急開催!(11/4) ・クロージングレセプション(11/4) ※10/12開催予定のオープニングレセプション及び10/13開催予定アーティストトークが台風上陸の影響で中止となった代替開催 「あざみ野フォト・アニュアル」 ・レセプション(1/25) ・田附勝:アーティストトーク(1/25) ・ダゲレオタイプ・ワークショップ:新井卓(2/1) ・対談 田附勝、石倉敏明(人類学者)(2/22)	【成果】 ・企画展出品作家と市民を繋ぐ交流会やワークショップを開催することにより、作家から直に作品発表に対する想いを聞く機会を提供し、市民と作家・作品をつなぎ現代アートへの理解を促す試みを行う。 ・常設小展示コーナーにおける、若手アーティストや障がいのあるアーティストの紹介に努め、当館を起点に市民に彼らの活動や作品について知る機会提供すると共に、HPやSNSでの情報発信にも注力し彼らの活動を支援。 ・男女共同参画センター横浜北との共催事業においては、毎月2回の定番事業であるロビーコンサートに加え、共同開発による講座を立案。残念ながら開催は、次年度への持ち越しとなったが、マスコミ等への訴求力も高い内容となり複合施設の特性を活かした、特色ある事業の創出が実現した。 ・地元地域を中心とした福祉施設のネットワークを活用し、障がい者が育てた野菜やカラダにやさしい食品、アートな表現がひかる作品を市民に提供。今年度よりマルシェとアートワゴンを同日開催する事により、今まで以上にロビー空間が賑わい、社会包摂のモデルケースを提示するとともに、訪れる市民に参加団体の活動をアピール出来た。 【課題】 ・昨年度からの持ち越しであるが、同じ青葉区にある横浜美術大学との交流について、打ち合わせ機会を持つことは出来たが、その後、特段の進展がなく成果を上げられなかった。同様に、他大学との関係も含め、大学連携については引き続き十分に達成していない状況にある。 ・当館の運営を市民サイドから支援していただいている「アートサポーター」の高齢化や参加者の固定化が進んでいる。第4期指定管理期間の初年度となる次年度からは、市民協働の体制作りに関しての本格的なテコ入れを行う事が必須。	(評価は前ページに記載)	
	7 ミニギャラリーを設置して、若手アーティストや障がいのある人たちのアート作品を発表する場を提供する	□新進アーティスト支援 ショーケースギャラリー □障がいのあるアーティストを紹介 フェローアートギャラリー	年4回 年4回	4回 4回	B B ※3/2-31までは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために閉館	□ショーケースギャラリー 年4回 ・水町文美展(4/27-7/7) ・椋本真理子展(7/20-9/24) ・土肥美穂展(9/28-12/15) ・大野綾子展(1/6-3/22) □フェローアートギャラリー 年4回 ・vol.34 伊藤有里 展(4/27-7/21) ・vol.35 長瀬明代 展(7/27-10/27) ・vol.36 山野将志 展(10/30-1/26) ・vol.37 品川太成 展(1/29-4/26)		
	8 センター横浜北との協働関係をさらに強化し、文化芸術と男女共同参画の理念を融合した事業を展開することで、魅力あるまちづくりにつなげる	横浜のアーティスト、地域の方々によるコンサート ロビーコンサート □年間開催回数 (ジュニアコーラス発表会1回を含む) □年間来場者数 ジュニアコーラスワークショップ □1コース実施回数 □延べ参加者数 アーティストや障がいのある人たちの活動紹介、作品発表・販売の場を支援「あざみ野アートワゴン、マルシェ」 □年間開催回数 文化芸術と男女共同参画の協働事業実施 □講演会、映画上映などの開催 □参加者数	24回 2,040名以上	22回 2,374名	B A B B A C C	□ロビーコンサート 年22回 (4/14、28、5/12、26、6/9、23、7/14、28、8/11、25、9/8、22、10/20、27、11/10、24、12/8、22、1/5、26、2/9、23) ※10/13開催予定分を、台風上陸の影響にて10/20に順延開催 ※3/8,22開催予定分は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止 □あざみ野クリスマスジュニアコーラス2019 練習:11/3、4、9、16、23、30、12/7、14、21、22 発表会:12/22 ※ロビーコンサートに含む。 □あざみ野マルシェ&アートワゴン 年12回 ※今年度は、個別開催していたアートワゴンとマルシェを「あざみ野アートワゴン&マルシェ」として開催(マルシェ6回、ワゴン6回) ・あざみ野アートワゴン&マルシェ(5/22、7/7、31、10/27、11/17、1/18) □あざみ野サロン「講演会:マイホームの夢とキッチン——台所は女の城か?」(3/1)を企画実施予定であったが、新型コロナウイルス感染予防対策につき次年度に延期 ※再掲		
	9 地域の人材を活用し、協働を強化する。アートサポーターの活動を拡大し、運営や広報活動への積極的な参加を促す。地元の団体やマイスターを活用した講座やワークショップを実施する	アートサポーターとの協働ワークショップ □年間開催回数 □年間延べ参加者数 全館を挙げてのイベント □アートフォーラムフェスティバル 地産地消や女性起業家応援を通じた地元エリアとの連携、活性化 □アートプラザのお弁当屋さん 青葉区主催・実行委員会形式事業へ協力 □あおば美術公募展 共催 □青葉区民芸術祭 共催 □フォトジェニック青葉への協力(予定)	年2回以上 300人以上 参加者4,000人以上 実施 実施 実施 実施	3回 参加:381人 サポーター:73人 4,547名 実施 実施 実施 実施	A A A - - - -	□アートサポーターによるワークショップ 年3回 ※全て再掲 ・こどものイベント「ふわふわ帽子をつくろう」(5/5) ・コスモスゴロクをつくろう!(7/26-8/4) ・「みんなで作るあったかクリスマス」(11/30,12/1) □あざみ野アートサポーター美術鑑賞会 ・あざみ野フォト・アニュアル 田附勝展鑑賞会(2/9) ※「一日満喫!美術鑑賞ツアー 横浜美術館&横浜市民ギャラリー」(3/7)については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止 □アートフォーラムフェスティバル2019(10/27) □アートプラザのお弁当屋さん(通年) □第4回あおば美術公募展(7/6-15) □青葉区芸術祭作品展(11/8-13,15-20) □フォトジェニック青葉フォトコンテスト審査協力(9/27)		
	10 青葉区が展開する6大学連携事業、横浜市北部4区の大学と連携を図り、人材の交流やコミュニティの活性化を実現する	大学連携 □大学との情報共有や事業連携の模索	随時	実施	-	□大学との情報共有や事業連携 大学連携 年間4校、7企画 ・城西国際大学:メディア学部による企画展紹介映像制作4企画 * Gallery in the Lobby * あざみ野コンテンポラリーvol.10 * あざみ野フォト・アニュアル(2企画) ・八洲学園大学:「博物館実習」実習生受け入れ ・東京藝術大学:学芸員、修復家、アーティストを対象とした近現代美術作品の最新の保存修復情報の共有 ・横浜美術大学:青葉区主催「フォトジェニック青葉フォトコンテスト」審査協力		

令和元年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 横浜らしい先進的な文化芸術の市民への発信をします。	11 企画展はコンテンポラリーアートを中核に、より多くの市民に足を運んでいただくよう「横浜らしさ」「親しみやすさ」「暮らしに身近な」をコンセプトに展開	企画展「あざみ野コンテンポラリー」				□あざみ野コンテンポラリーVol.10 「しかくのなかのリアリティ」(10/14-11/4) ※台風19号の影響により10/12-13臨時休館 【関連企画】 ・学芸員によるギャラリートーク(10/20) ・アートなピクニック ―視覚に障がいがある人となない人が共に楽しむ鑑賞会(10/26) ※以下、再掲。 ・アーティストトーク#2加茂昂／松本奈央子(10/19) ・水野里奈＋山岡敏明アーティストトーク緊急開催！(11/4) ・クロージングレセプション(11/4) ※10/12開催予定のオープニングレセプション及び10/13開催予定のアーティストトークが台風上陸の影響で中止となった代替開催	A	(評価は前ページに記載)
		□来場者数	3,000人以上	3,813名				
		□平均満足度	4.6以上	4.42(未達)				
	12 都心部フェスティバル事業と連携した企画によって、イベントの周知や盛り上げの相乗効果を発揮	「横浜音祭り2019」の情報発信・関連事業				□横浜音祭り関連事業 16回 ※全て再掲 ・ロビーコンサート(毎月第2/第4日曜日) 年22回開催/フェスティバル期間13回、うちコア期間(9/15-11/15)4回開催 (5/12、26、6/9、23、7/14、28、8/11、25、9/8、22、10/20、27、11/10) ・あざみ野ナイト「ハリ島の影絵人形芝居ワン マーハーラタビマの鬼退治」(8/4) ・あざみ野レッズ「北欧ルウエーの美しき民族楽器 ハーディングフェーレ」(9/21) ・あざみ野オヘア歌合戦「泉良平 VS 新津耕平 因縁のリターンマッチ」(11/9)	B	・「横浜音祭り」開催に合わせ、音楽関連事業「ロビーコンサート」「あざみ野ナイト」「あざみ野カレッジ」等で音楽事業を開催。特にレクチャールームで行われた「あざみ野オヘア歌合戦」には、大勢の観客が詰め掛け大変賑わいとなった。いずれも、横浜北部におけるフェスティバル振興に高く貢献したと考える。 【課題】 ・あざみ野コンテンポラリーの顧客満足度アンケートでは、今年度も目標値を下回る結果となった。また、横浜北部の住宅地にあるギャラリーであえて「現代アート」を取り上げる以上は、施設周辺の住民が気軽に鑑賞に訪れるようになるような、来館促進に繋がる広報や関連事業の企画実施が不足している。
		□あざみ野サロン内:1回	1回	1回				
		□来場者数	150名	112名				
		□パートナー事業(5～11月)	実施	実施				
		□館内での動画、チラシ、ポスター掲出等	随時	実施				

令和元年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		□アーティストに学ぶ		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
5 カメラ・写真コレクションの展示・保存・調査研究・教育普及をします。	13 適切に保存するとともに、調査研究を進める	データベース整備 ■作品の状態確認・修復 ■データの有効活用法を検討	随時	実施	-	●収蔵作品の状態確認・調査・整備 作品の保管状態を点検・改善しながら作業を行いました。不正確な目録を調査、補完して修正しています。	【成果】 ・保管状態を点検・改善しながらの作業を継続、不正確な目録を調査、補完して修正するという地道な活動を着実に遂行している。 ・今年度の企画展は、田附勝の個展を開催。2012年から撮影を始めた「KAKERA」シリーズを紹介。同シリーズは、国内各地の博物館や発掘現場で保管されていた膨大な縄文土器のかけらを、箱の中で中敷きや梱包として使用されていた当時の新聞と共に保管状態そのままに撮影したものである。本展は、鑑賞者に考古遺物と歴史の邂逅を目撃するかのような経験をもたらす、新鮮な驚きと複雑化した時間について考えるきっかけを与えるものとなった。また、田附と親交の深い人類学者・石倉敏明氏との対談も盛況であった。 ・コレクション展は、写真誕生から180年を記念し、世界で最初の写真術であるダゲレオタイプをテーマに所蔵品を紹介。写真が誕生したヨーロッパ、ダゲレオタイプが発展したアメリカを中心に、どのように伝播し受容されていったのか、写真、カメラ、撮影器具や関連資料を通じて丹念に辿る展示となった。ダゲレオタイプ・新井卓氏によるワークショップも開催し好評を得た。 ・カメラ・写真に関わる各種講座、ワークショップ、小展示などを多彩に展開し、貴重なコレクションを所蔵する当館の特色を全面に押し出す事に努めた。 ・昨年度、当館で開催した「暗くて明るいカメラの部屋 Guest Curator 野村浩」を中国・成都「A4 Art Museum」にて開催。野村が出版したコミック本『CAMERAer—カメラになった人々』に登場するキャラクターを案内役に、横浜市所蔵カメラ・写真コレクションを中国の方々を紹介し、大好評を博した。 【課題】 ・今後、横浜市写真・カメラコレクションをどのように活用していくのかについては、横浜市にその決定責任がある。当方が有する知見と経験をもって、長期的な展望に基づいた市の活用方針確立に貢献していきたいと考える。	行政評価
		■収蔵環境の調査 維持管理目標に掲載	実施	実施	-	■データベース整備 ・経常的に、作品の状態確認、修復を続けています。 データの有効活用法を検討(随時) ■収蔵環境の調査を実施(維持管理目標に記載)		
		■収蔵品の活用 貸出、熟覧への対応	随時	実施	-	■収蔵品の活用 ・外部からの貸出、熟覧については、その要望にできる限り応えられるよう、柔軟な対応を心掛けています。		
		企画展「あざみ野フォト・アニュアル」						
	□来場者数	3,000人以上	4,917人	A	□あざみ野フォト・アニュアル(1/25-2/23) 企画展「田附勝展「KAKERA きこえてこなかった私たちの声」」 横浜市カメラ写真コレクション展「ダゲレオタイプ 記憶する鏡」 【関連事業】(企画展) ・アーティストトーク(1/25) ・学芸員によるギャラリートーク(2/9) ・アートなピクニック(2/11) ・対談 田附勝、石倉敏明(人類学者)(2/22) 【関連事業】(コレクション展) ・学芸員によるギャラリートーク(2/9) ・ダゲレオタイプ・ワークショップ(講師:新井卓=写真家)(2/1) ・あざみ野カレッジ「アメリカのダゲレオタイプ」(講師:日比谷安希子)(2/15) 【関連事業】共通 ・山内小学校6年生による展覧会鑑賞ツアー(1/29,2/5)			
	□平均満足度	4.6以上	4.75	B				
	□ギャラリー イン ザ ロビー				□「Gallery in the Lobby」 ・カメラのしくみ2019(4/25-5/26) ・記念カメラ(10/2-10/27) ・カメラと画角サイズ(10/30-11/24) ・スポーツとカメラ(2/29-3/29) ※3/2-3/31新型コロナウイルス感染予防対策につき臨時閉館			
	□「Gallery in the Lobby」	年4回	4回	B				
	カメラや写真制作に関わる理解促進 ワークショップや講座	年4回	8回	A	【ワークショップ】※再掲 ・「やさしく、たのしいデジタル一眼カメラ」(4/11-6/6)計5回 ・山内小写真ワークショップ「自分の思いと写真」(6/11、17、24、7/1) ・親子向け写真講座「浅田家直伝! 家族写真術」(10/26,11/16) ・ダゲレオタイプ・ワークショップ(2/1) 【講座・イベント】※再掲 「あざみ野フォト・アニュアル」 ・アーティストトーク(1/25) ・対談 田附勝、石倉敏明(人類学者)(2/22) ・あざみ野カレッジ「アメリカのダゲレオタイプ」(講師:日比谷安希子)(2/15) 【その他】 ・山内小学校展覧会鑑賞ツアー(1/29,2/5) ・横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展 海外巡回展 平成30年度あざみ野フォト・アニュアル コレクション展(横浜市所蔵カメラ・写真コレクション)を中国四川省・成都市A4 Art Museum主催で同美術館で開催、大好評を博しました。 (2019年11月23日~2020年2月23日 ※2/3より新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため閉幕終了)			
	□「ギャラリー オン ザ マガジン」年4回	年4回	4回	B	□情報誌「アートあざみ野」での「ギャラリー オン ザ マガジン」掲載 ・Vol.47「ハンザキヤノン」 ・Vol.48「ダゲレオタイプとジオラマの技術に関する歴史と詳細」 ・Vol.49「ダゲレオタイプ・ケース」 ・Vol.50「琉球 泊村の寺院(『ペリー日本遠征記』より)			

令和元年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価			
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
1 市民の文化芸術活動の支援をします。	【貸館】 利用の際のアドバイスも充実させ、利用者の制作活動や発表の場で最大限の成果が得られるように支援	【利用率】 □展示室1・2	100%	92%	B	□展示室1:92%(半面A:92%、半面B:92%) 展示室2:91.5%(半面A:92%、半面B:91%) □アトリエ コマ単位 □アトリエ 日にち単位 □アトリエ 夜間コマ ※全て小数点以下四捨五入	【成果】 ・可能な限り、利用者の都合に合わせて、打ち合わせ及び現場視察に対応する事により高い満足度を維持している。 【課題】 ・展示室については、例年並みの100%に近い実績で推移していたが、3月に始まった新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による閉館のため、稼働率が落ち未達となった。 ・アトリエ利用率は、目標値に届かない形での横ばい状態となったことに加え、3月に始まった新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が追い討ちをかける形となった。ただし、日にち単位では、80%近い利用があり、経常的に低いとは考えない。今後も、夜間利用を中心とした利用者開拓に向け、近隣教育機関との連携や夜間での自主事業・共催事業を開催するなど考慮していく。	【評価できる点】 ・展示室利用率は新型コロナウイルス対応による休館等の影響により、目標の達成はできませんでしたが、高い利用率を維持し、地域の文化芸術活動の発表の場を提供することができました。特に、施設貸出にあたり、施設スタッフが展示に応じたきめ細やかな利用調整、アドバイス等を行うことで、満足度の高い展示環境を提供したことを評価します。 ・適切な人材の配置、効率的な勤務体制の実行により、安定した施設運営が継続された点を評価します。 ・個人情報の適切な取り扱いや、人権尊重に係る研修の実施等、業務を適切に遂行したことを評価します。 【更なる取組を求める点】 ・アトリエの利用率が目標を下回りました。これまでも各種割引制度の実施や周辺施設への営業等の工夫に取り組んでいる点は評価しますが、より効果的な利用促進策の検討に期待します。	
		□アトリエ コマ単位	63%	47%	C				
		□アトリエ 日にち単位	93%	79%	C				
		□アトリエ 夜間コマ	36%	23%	C				
		■展示への専門性の高いアドバイス(対施設利用 広報支援(対施設利用者))	実施	実施	-				■展示室、アトリエの事前打合せを行い、展示方法のアドバイス、不明な点の解消や要望に応えるよう努めました。展示室内での演奏会などの要望には、当日の全館利用状況をみながら調整・実現を図りました。
		□「アートあざみ野」で展覧会情報を紹介	4回	4回	B				■広報の協力 引き続き、広報誌「アートあざみ野」や施設ホームページに展示室、アトリエの利用を掲載すると共に、展示室については、会期中の会場写真もアップしました。チラシや案内については、常時受け入れ、館内配架いたしました。
	【各種支援】 利用の際のアドバイスも充実させ、利用者の制作活動や発表の場で最大限の成果が得られるように支援	■チラシやフライヤーを配架	実施	実施	-	■可能な限りお客様の都合に合わせて、打ち合わせ及び現場視察に対応するように努めました。			
		■施設HPで展覧会写真を紹介	実施	実施	-	■「割引制度」については、残念ながら利用促進に特段の効果は得られていません。経常的に「夜間割引」の利用はありますが、令和元年度についても「学生割引制度」を利用した団体はありませんでした。			
		利用者への的確で丁寧な対応、現場視察への柔軟対応、展示への専門性の高いアドバイス(対施設利用者)							■現在の貸館状況や施設に空きが出た場合の情報発信を迅速に行い、利用率の向上に努めました。
		■利用者打合せ	実施	実施	-				
		■現場視察対応	実施	実施	-				
		■HPでの施設情報提供	実施	実施	-	■ホームページ上に、分かりやすい文章表記を心掛けた施設情報を記載しました。			
【施設提供に関する利用者サービス】 ホームページでの施設情報提供、利用期間中の物品預かり、制作活動のための空き時間のアトリエ提供	■市内外ギャラリー情報の提供(配架)	実施	実施	-	■当館に寄せられた、市内外ギャラリーや文化施設のリーフレットやチラシ類を分野別に1階エントランスロビーにて閲覧しやすい形で配架いたしました。				
	■利用期間中の物品預かり	実施	実施	-	■随時、物品預かりを実施しました。				
	■アトリエ割引(夜間割引、学生割引)	実施	実施	-					
	■施設空き情報の即時公開システム運用	実施	実施	-					
	■管理合同ミーティングを毎週火曜日に行い、アートフォーラム全体での運営状況や課題、クレームや意見を共有、対応策を協議し迅速な運営改善を行っています。								
	■クレームや意見を情報共有し、運営改善につなげる								
2 利用促進、利用者サービスの向上及びアイデアノウハウの提案をします。	4 アンケートや意見聴取等による利用者ニーズの把握	□利用者アンケート 展示室利用者の満足度	4.6以上	4.71	B	【成果】 ・貸館利用者の満足度は、目標値を達成し高い水準を維持している。利用者から寄せられる要望・意見については、その都度課内で共有し対応可能なものについては即時対応を心掛けている。 【課題】 ・利用団体によっては、構成メンバーの高齢化や個人の寄り合いで行う事務局運営による情報伝達の不備があり、当館との打ち合わせを行った先方の担当者や所属出品者との利用に関する注意事項の共有がなされていない事が散見される。結果、個々の出品者から、統一されない形で直接使用料が掛かる貸し出し物品等の要求が入り、その対応に苦慮するケースがある。繰り返し丁寧な説明を心がけると共に、当館とのやり取りについては、窓口一本化の徹底を更に促す。			
	5 要望や苦情への対応、運営改善		実施	実施	-				
3 組織的な施設運営をします。	6 適切な人材配置	■人材配置 館長:1人、副館長:1人、職員:8人、 臨時職員:3~5人	実施	実施	-	【成果】 ・シフト組み、情報共有体制を整え、切れ間なく安定した施設運営の継続を年間を通じ実現した。 ・個人のプライベートでの予定についてもシフト上可能な限り対応し、相互協力の体制を維持した。 【課題】 ・定期異動等での職員の入れ替わりの際には、組織全体を俯瞰した中で、最も効率的な引き継ぎを行う。また、全職員が「多能的」に施設運営を担えるよう、OJTや研修を、地道に継続していく事が必須である。			
		■勤務体制 繁閑に応じて柔軟なシフトを組み、 良質な利用者サービスを提供する 早番:2名、遅番:2名(基本ローテーション)	実施	実施	-				
		■切れ目のない責任体制の維持 館長・副館長不在時の代行者を明確にし、 責任体制を維持する	実施	実施	-				

令和元年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 本市の重要施策を踏まえ取り組みます。	7 全般的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ■横浜市が発信する情報や研修参加等を通して、重要施策を理解し、積極的に協力 ■コンプライアンス情報の共有、意識の向上 	実施	実施	-	<ul style="list-style-type: none"> ■個人情報の保管 施錠管理、パスワードロック ■顧客管理クラウドシステム「シナジー」導入 ■平成28年4月1日に施行された「障害者差別解消法」の内容を把握し、来館される方々が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に貢献する施設運営を目指しました。 ■利用者にはゴミの持ち帰りをお願いし、事務所で発生するゴミも細かく分別して再利用を促進し、排出量を抑えるよう努めました。「アートフォーラムあざみ野(複合施設)」全体でのゴミ排出量は、前年比90%の3,158kg(前年3,506kg)でした。 ■空調運転など工夫し年間使用量については、昨年度並みを維持しました。電気 対前年度比:94%、ガス 対前年度比:97% ■物品購入・業務委託等にあたっては、有資格者名簿を参考に複数業者に見積りを取るなどし、出来得る限り市内業者への発注に努めました。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の重要施策を念頭に、毎月の職員会議での情報共有を行っている。常に、ホスピタリティの向上と公平・公正を心掛け、利用者サービス向上に努めた。 ・定期的にコンプライアンス研修のほか、職員ミーティング等で注意喚起に努めている。マイナンバー収集にあたっては、実務に沿った研修、作業における事務所内における目隠しの徹底などに努め、個人情報の漏えい防止対策を励行。 ・ゴミ排出量やエネルギー使用量については、毎週の施設全体会議で推移を共有し抑制に努め、昨年並みを実現。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規職員配置、人事異動や退職などに動じない、安定運営を継続するための、業務システム構築への不断な努力が今後も必須である。 ・当館のみならず、施設全体としての共通目標として取り組む課題なので、引き続き各部署との連携及び情報共有を強化していく。 	(評価は前ページに記載)
	8 個人情報保護・情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ■個人情報の、規程およびマニュアルに基づいた適切な取扱 	実施	実施	-			
	9 人権尊重	<ul style="list-style-type: none"> ■すべての人に開かれた施設として、公平・公正な施設運営 	実施	実施	-			
	10 環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ■ゴミの排出量を抑える施設運営上、発生するもの;適切に分別利用者;原則持ち帰りの徹底。必要なら有料で処分 ■エネルギー使用量の抑制電気・ガス使用量を前年度並みに抑制 	実施	実施	-			
	11 市内中小企業への優先発注	<ul style="list-style-type: none"> ■物品購入、委託アーティスト指定、市外業者のみの業務を除き、市内業者に発注 	実施	実施	-			
5 その他施設運営に関する事項								

令和元年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 施設及び設備の維持保全及び管理をします。	1 共用部分の維持管理業務	<input type="checkbox"/> 電気・空調・衛生設備・昇降機点検、建築基準法12条に基づく点検の法定通りの実施 <input type="checkbox"/> AED設置、操作研修 <input type="checkbox"/> センター横浜北、管理委託会社との管理検討会 <input checked="" type="checkbox"/> 横浜市が策定する、手引き、マニュアルに基づく点検・報告の実施	実施 年1回 年1回 随時	実施 1回 1回 実施	- B B -	【成果】 ・毎週1回の管理合同ミーティングの中で、施設や設備の不具合を共有し、効率的で効果的な修繕を実施し、常に現時点での最善な状態の維持を心掛けた。今年度は、利用者の指摘を検討し駐輪場前の歩道切下げ工事を実施、また予算により冷水発生機の整備工事が完了。 【課題】 ・開館後15年を経て、今後も小破修繕では対応しきれない大型の設備更新の必要が出てくると想定される。施設の運営に支障が生じないよう関係各所と密に情報共有を行う。 ・引き続き、「アートフォーラムあざみ野」施設全体としての「安全・安心」を維持するため、今後もセンター横浜北、管理委託業者との密なる連携を継続できるよう、日ごろからのコミュニケーションを大切にしていく。	【評価できる点】 ・年間を通じて適切な維持管理を実施し、施設原因の事故等の発生件数がゼロ件であった点を評価します。同一建物内に設置された男女共同参画センター横浜北の指定管理者とも定期的なミーティングを行う等、密に連携を取りながら、効率的に施設管理を行うことができました。 【更なる取組を求める点】 ・引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。 ・所蔵するカメラ・写真コレクションのデータベース化や管理方法等、今後の資料活用については、本市と共に検討を継続してください。
	2 専有部分の維持管理業務	<input type="checkbox"/> 展示室壁面の塗り直し 実施回数 <input checked="" type="checkbox"/> 展示室、アトリエ貸出備品の点検・整備 <input checked="" type="checkbox"/> 第3期指定期間内における修繕、設備・備品更新などに関する提案	年1回 随時 随時	1回 実施 実施	B - -		
2 小破修繕へ取り組みます。	3 早い段階で修繕必要箇所を発見、対応し、建物・設備の長寿命化を図る	<input checked="" type="checkbox"/> 不具合を早期発見し、修繕必要箇所へ迅速に対応 <input checked="" type="checkbox"/> 適切で効果的な維持保全及び管理の実施	実施 実施	実施 実施	- -	【成果】 ・不具合について自ら修繕できるものは速やかに対応、また、業者への委託が必要なものは依頼事務も含め迅速に且つ適切に処理し事故発等の発生を未然に防ぐことが出来ている。 【課題】 ・開館15年を超え、様々な経年劣化が生じている。加えて、法規等の変更により定期検査の間隔や仕様変更も発生する。引き続き館全体としての対応を小まめに協議し、最善の状態を維持していく。緊急性は高くないが、利便性や将来的な耐久性に効果がある修繕に関しては柔軟に対応を図る。	
3 カメラ・写真コレクションの適切な収蔵、保管をします。	4 適切な収蔵庫管理の実施 温湿度管理、空気測定、喰害虫調査など	<input type="checkbox"/> 収蔵庫内環境の維持 <input checked="" type="checkbox"/> pH値を定期的に測定して、結果に応じたケミカルフィルターを設置 <input type="checkbox"/> 文化財喰害虫生息調査 実施回数 <input type="checkbox"/> 庫内点検、定期的な清掃 実施回数 <input checked="" type="checkbox"/> 収蔵・保管、活用について、専門機関と協力・連携	温度 20℃±2℃ 湿度 50%±2% 随時 年8回 月1回 実施	実施 実施 実施 実施	- - B -	【成果】 ・展示室内の空調管理、収蔵庫の空調やpH管理を遂行。作品収蔵に適した空気環境を整えた。3月には、経年劣化の兆しが見られる収蔵庫除湿機の交換工事を実施され、より質の高い環境を整備。喰害虫の入り込みについては、定期報告をもとに一層の配慮を行う。 【課題】 ・当該業務は、横浜市所有のコレクションに対する長期的な活用計画に基づくべきものである。故に、コレクションの将来的な活用展望の確立が必須。 ・5月に庫内空調機及び付近で大量のクロバネキノコバエの死骸が発見され、7月に光誘因トラップを設置。8月に少数の捕獲があったものの10月以降捕獲はなく、明確な侵入経路は不明だが収蔵品への影響はなく、以後環境維持に一層努める。	
4 事故防止策・緊急時(防犯)の対応、防災に対する取り組みをします。	5 事故防止策	<input checked="" type="checkbox"/> 安全管理に関するマニュアルの必要に応じた更新、改訂	随時	実施	-	【成果】 ・アートフォーラムあざみ野全体の取組みとして、センター横浜北や管理委託業者との日常的なコミュニケーションを図り、危機管理に対する良好な協働体制が構築されている。 ・今年度は、年2回の合同防災訓練を確実に開催し、施設全体での災害時対応の強化に努めた。 【課題】 ・緊急時においては、組織上のヒエラルキーや所属する「ギャラリー」「センター北」の区別なく、在籍職員が施設全体を把握し、的確な危機対応が出来るよう、引き続きの訓練を要する。 ・今年度発生した新型コロナウイルス感染症のような事態についても、施設全体で統率の取れた対応を図れるよう、日頃からの連絡調整や情報共有を密に行う。	
	6 緊急時(防犯)対応	<input checked="" type="checkbox"/> アートフォーラムあざみ野全職員が一致して危機対応する	実施	実施	-		
	7 防災に対する取組	<input type="checkbox"/> センター横浜北との合同防災訓練 実施回数 <input type="checkbox"/> 帰宅困難者一時滞在施設対応訓練 実施回数	年2回 年1回	年2回 年1回	B B		

令和元年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
5 その他施設管理に関する事項	8 広報の充実 事業内容や想定対象層等を踏まえて効果的な媒体を選択し、コストパフォーマンスの高い集中広報を行う	ホームページの内容の充実、最新情報の発信				□ホームページ更新 週3回程度 □アクセス数 トップページ:593,706件 ページ(全てのページ):2,605,395件 □メールマガジン発行 年25回配信 □情報誌「アートあざみ野」年4回発行:vol.51~54 □有料広報 年1回 企画展(コンテンポラリー)で駅貼りポスターを行いました。 □無料媒体 毎月1回以上掲載 「広報よこはま」や地元タウン誌掲載のほか、PR-Times配信によるWeb掲載 ■地元地域周知のため、駅貼りポスター(あざみ野サロン「マイホームの夢とキッチン」)、町内会回覧板チラシ折込み(あざみ野サロン「新春あざみ野寄席」)を実施 ■広報よこはま、フリーペーパー、ラジオなどの無料媒体は、主催展覧会やトピックス(講座、公演系)を取り上げ施設の存在をアピール。 ■Facebook: 事業告知及び終了報告を中心に随時更新 ■Twitter: 事業告知やトピックスの即時性を重視し更新 ■10月開催のアートフォーラムフェスティバルについては、昨年よりエリアを拡大して新聞折込みを行っています。 ■合同広報会議: 毎週1回の管理合同ミーティングの際や共催事業開催時に随時実施。10月に開催した共同主催の「アートフォーラムフェスティバル2019」でチラシを当日配布物と分けて作成、チラシの新聞折込を拡大するほか、それぞれ広報先を持ち寄り共催事業の告知に活用する等、施設としての活動周知に協力し努めました。	【成果】 ・企画展実施の際に、地元地域への周知を厚くするため、駅貼りポスター(コンテンポラリー)、による情報を発信し認知度を高める。 ・「広報よこはま」では、毎月当館のコーナーを設け情報発信。また、地元タウン誌等の情報掲載欄に事業情報の掲載が実現。 ・地元地域への周知を厚くするため、町内会回覧板チラシ折込み(あざみ野サロン「新春あざみ野寄席」)を実施し高い集客効果を上げた。 ・毎週1回の管理合同ミーティングの際や共催事業開催時に随時アートフォーラム全体の広報に関する情報共有や対策を相談。 ・高頻度でのホームページ更新を継続、最新の情報発信に努め、高いアクセス数を獲得。 【課題】 ・「あざみ野コンテンポラリー」「あざみ野フォトアニュアル(企画展)」について、広範囲での広報という点での充実は図られており、都内、市外からの来場者や各種全国紙等での掲載も実現しているが、その反面、未だに近隣住民が気軽に訪れる状態になっている実感が持てない。更に「足元(地元)」地域への効果的な誘客手法の検討が必要。	(評価は前ページに記載)
		□ホームページ更新	週1回以上	実施	-			
		□ホームページアクセス件数	年間50万以上	年間累計 総ページ:2,605,395 トップ:593,706	A			
		□メールマガジン 配信数	月1回(定期配信)	25回	A			
		様々な広報媒体の活用						
		□情報誌「アートあざみ野」発行	年3回以上	4回	B			
		□企画展の広報 有料広告の効果的な活用	年3回	年1回	C			
		■新聞折込による情報発信	適宜	実施	-			
		□無料媒体への掲載 掲載回数	月1回以上	月1回以上	B			
		■Facebookによる情報発信	随時	実施	-			
■Twitter情報発信	随時	実施	-					
■センター横浜北との協力 合同広報会議 開催回数	適宜	実施	-					

令和元年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 収支構造及び収支バランス	1 一部自主事業の収支ゼロ化	□収支ゼロ若しくは黒字で行う自主事業	年間100万円以上	フェスティバル及び市民プログラム(10コース):184万 A	□年間1,843,278円 「市民のためのプログラム」(年間10コース、参加者数:延べ743人)及び「アートフォーラムフェスティバル」について、全体収支における受益者負担率がそれぞれ、103.8%、114%と収支ゼロを超えた黒字となりました。	【成果】 ・目標に定めた「市民のためのプログラム」(年間10コース、参加者数:延べ743人)について、収支額における黒字を達成。 【課題】 ・今後、黒字達成の可能性のある事業として、「あざみ野サロン」による有料公演等が考えられる。当外事業の実施については、更なる収益性を重視した販売促進等に努める。	【評価できる点】 ・自主事業の企画にあたっては、内容を充実させるため、各種助成金の獲得に努めた点を評価します。 【更なる取組を求める点】 ・今後も質の高い自主事業を展開を持続するために、収支バランスにも配慮した企画立案を行ってください。
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造	2 利用料金の安定的な確保	□利用料金収入(施設、駐車場)	1,310万円以上	施設累計: 7,289,900 駐車場:3,666,868 合計:10,956,768 C	□年間1,096万円(未達) □助成金を5件申請(4件採択) □助成金・協賛金・広告料獲得 287万2千円	【成果】 ・あざみ野コンテンポラリー:177万2千円、あざみ野フォト・アニュアル:60万円の助成金を獲得。 ・その他、横浜アーツフェスティバル実行委員会より音楽祭助成金やアートフォーラムフェスティバルに対してメルセデスベンツあざみ野からの協賛金得る。 ・広報誌への広告収入や現物協賛(レセプション用飲料提供等)を得る。 【課題】 ・展示室については、例年並みの100%に近い実績で推移していたが、3月に始まった新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による閉館のため、稼働率が落ち年間達成額の未達となった。 ・助成金獲得について、今年度は高い成果が得られたが、次年度に向け、この水準を維持する事は困難な見通し。更なる協賛金等の外部資金の獲得への注力が必須である	
	3 助成金・協賛金、現物協賛の獲得	□助成金 申請件数	2件以上	5件 A			
3 経費削減等効率的運営の努力	4 経費削減・効率的運営の努力	■センター横浜北と協力し、施設管理に係る委託費を抑制	前年度並みに抑制	実施 B	■建物総合管理、設備保守、警備、受付、清掃業務委託については、前年度並み(予算内)に抑えることができました。開館15年を超え、様々な機器や設備の更新時期が迫っています。	【成果】 ・建物総合管理、設備保守、警備、受付、清掃業務委託については、前年度並み(予算内)に抑制。 【課題】 ・時期を先送りすることが適わない、様々な機器や設備の更新が迫っている。	
			100万円以上	助成2,622,000円 協賛250,000円 A			

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1						【成果】 【課題】	(評価は前ページに記載)

評価項目		R1年計画	実施状況	評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	説明	自己評価	行政評価
1				<p>【全体業務について】</p> <p>第3期指定管理期間の最終年を迎え、この5年間で目標として掲げた事項の「達成度」を最終検証し、達成した事項については継続的な維持・発展を担保すると共に、未達成事項についての期間内達成を目指しました。当館が将来にわたり、ここ横浜北部において創造性溢れる表現活動を幅広く育み、人と人とが交流する市民と創造活動の「出会いの場」であり続けるための基盤を確立することが出来たと自負します。</p> <p>① 事業について</p> <p>企画展は、例年通り年間3事業を夏・秋・新春に実施。「あざみ野こどもぎやらい2019」では、多数のアニメーション作品、原画等を展示し、多様な幻想的な空間を展示室の中に出展させました。小学校の児童が撮影した写真「自分の思いと写真」の展示に加え、地元企業からの資料提供を受け開催した造形ワークショップの成果発表展も併催するなど、地元の教育機関や企業との連携強化にも努めました。</p> <p>芸術の秋には、「あざみ野コンテンポラリー」を開催。5人のアーティストたちの作品を紹介しました。絵画を通じて表現された“現実”すなわちフィクショナルなリアリティをめぐるアーティストの実践から、個々のリアリティが如何に画面に積層し、わたしたち鑑賞者と接続しようとしているのか、媒体としての今日性を問いながら読み解く展覧会となりました。</p> <p>新春には、写真表現の現在を切りとる企画展と、カメラ・写真コレクションを様々な切り口で紹介するコレクション展を開催。企画展では、田附勝氏の「KAKERA」シリーズを紹介し、鑑賞者に考古遺物と歴史の邂逅を目撃するかの様な経験をもたらし、新鮮な驚きと複雑化した時間について考えるきっかけを与えるものとなりました。コレクション展では、写真誕生180年を記念し、世界で最初の写真術であるダゲレオタイプをテーマに所蔵品を紹介しました。写真が誕生したヨーロッパ、ダゲレオタイプが発展したアメリカを中心に、どのように伝播し受容されていったのかを丹念に辿る展示となりました。</p> <p>アトリエ事業では、「市民のためのプログラム」として初心者から上級者までそれぞれのニーズに応える幅広い内容で開催、創作の楽しさを通してアートをより身近に感じていただくことを目指しました。体験する機会が少ない分野を積極的に取り上げ個性ある事業展開を図りました。</p> <p>「子どものためのプログラム」では、子どもたちが自立心と心身の健やかな成長を育むことを目的に、造形活動を中心としたプログラムを年齢別に展開しました。多彩な素材を使い、どの講座においても高い評価を得ました。また、全てを事故なく安全に実施することができました。</p> <p>「あざみ野カレッジ」では、文化芸術に限らず、幅広い分野や横浜市で活動する講師陣に依頼するとともに、現地に赴くツアー形式の企画なども配し「街の再発見」につながる展開を意識し、高い満足度を得ました。</p> <p>「横浜音楽祭2019」際し、実行委員会との事業連携や広報協力等を通じ、単なるコンサートにとどまらず、オリジナル事業を開催する事で、横浜北部でのフェスティバル発信拠点の役割を担いました。</p> <p>アウトリーチ事業では、横浜市芸術文化プラットフォーム事業を継続実施するほか、当館独自に横浜北部地域の小・中学校や公共施設等との連携による実施を行いました。昨年度から続けている近隣企業から資料協力を受け開催する造形プログラムについて、同じ手法での新規企業開拓も行いました。</p> <p>センター横浜北との共催事業では、ロビーコンサートや舞台公演に加え、と男女共同参画との融合による講座を企画しました(新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により次年度へ延期)。</p> <p>その他、特筆すべき出来事として、昨年度実施した「横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展 暗くて明るいカメラの部屋」が、中国・四川省成都市の「A4 Art Museum」にて開催され、好評を博しました(会期中で新型コロナウイルス感染症拡大防止のため閉幕)。</p> <p>② 運営について</p> <p>「ホスピタリティの向上と公平・公正」を運営の基本に据え、利用者にとっての安全安心を第一に、バリアフリー対応や災害時等の適切な対応等をセンター横浜北との協働で推進しました。</p> <p>利用者をはじめ幅広い市民の意見を積極的に取り入れ施設運営に反映させると共に、市民が主体となって芸術に関わる、貸館での展示利用やワークショップについては、利用者の文化芸術活動が最大限発揮できるよう専門的なサポートを行いました。</p> <p>貸館での展覧会を多くの市民に見ていただき、展示する側と見る側の交流を豊かにしていくことが、「まちづくり」に重要な役割を果たすと考え、貸館事業の広報支援にも努めました。</p> <p>③ 管理について</p> <p>「アートフォーラムあざみ野」の施設・設備の維持管理業務を共同で担う男女共同参画センター横浜北及び管理委託会社と情報共有し、PDCAを徹底し、施設の長寿命化や環境への負荷軽減に向けた管理を実施。特に今年度は、共用部として空調設備(吸収式温水発生機)整備工事が実現しました。今後の様々な機器や設備の更新時期についても、きめ細かな対応計画を心掛けました。</p> <p>市民ギャラリーあざみ野の専有設備等については、展示室の蛍光灯交換、収蔵庫の扉やアトリエ音響システムの修繕等が実現しました。ギャラリーとしての高い水準を維持し、長寿命化を図るために、引き続き丁寧な維持管理と経費管理を行っています。</p> <p>また、市民の貴重な財産であるカメラ・写真コレクションの整理・保存を適切に行うとともに、当資料の将来に向けた効果的な活用策について検討を進め課題点を含めた提言を行いました。</p>	<p>・地域団体や企業、学校などとの連携を深め、多彩な企画を打ち出し、市民に文化芸術に触れる機会を提供していることを評価します。講座や学習プログラム等の内容について検討を行い、幅広いテーマで様々な世代に応じた事業を展開しました。</p> <p>・あざみ野という立地や地域特性を活かした企画等を通して、地域の皆さんに身近な場所で文化芸術の活動の機会や発表の場を提供する役割を果たした点を高く評価します。今後もこれらの活動を継続、深化することで、文化芸術を通じたコミュニティの活性化に資することを期待します。</p> <p>・本年度は3回の企画展に加え、昨年度開催した企画展が中国・成都で巡回展を行いました。横浜所蔵カメラ・写真コレクションを横浜のみならず多くの方々を紹介する機会を創出しました。カメラコレクションの活用という点においても新たな可能性を見出した取組となりました。</p> <p>・施設運営では、安定した運営を継続したことを評価します。また、男女共同参画センター横浜北と連携を図り、複合施設としても適切な維持管理を行うことができています。</p> <p>次期指定管理期間も施設の特性を活かした魅力ある事業と、安定した施設運営を継続してください。</p>
1					
1					
1					